



同時開催 「空のない星」 ～ホロコーストの子供たち～

子どもたちの当時の暮らしを絵や詩、手紙、おもちゃなど写真と解説で紹介します。
ヤド・ヴァシエム(世界ホロコーストセンター)が企画・制作したパネルを在日イスラエル大使館の協力を得て都内で初めて展示します。

【写真】 ローザ・ウルマン・ウォルフ / 戦争中のベルギー、ウェゼンベークの児童施設にて

テレジンの小さな画家たち展



ドリス・ヴァイゼロヴァー作

～展覧会に寄せて～

テレジン収容所の子どもたちは夢を絵にたくし、多くがアウシュヴィッツへ送られました。
たくさんの大人の協力で奇跡的に4000枚の絵が遺されました。

この展覧会では野村路子氏制作のレプリカパネルで一部をご紹介します、絵に込められたメッセージをお届けします。

子どもが夢を描くとき…

先の見えない不安定な現代ですが、今を生きる子どもたちの瞳にも希望を映し続けられるようお願い、府中市で初めて開催します。

テレジン収容所

チェコ北部にある小さな街、テレジン。
かつて、アウシュヴィッツへの中継地として街すべてが収容所となりました。
連れてこられた10歳～15歳の子ども1万5000人は、名前も家族も奪われ、労働力として使われました。生還できたのはたった100人でした。

生きる喜びを教えたフリードル先生

過酷な環境下、「創造することは生きる力になる」と子どもたちに絵を教えた先生。「芸術は世の中全体の調和の中にあるもの」という信念を持ち、収容される前に潜んだ納屋でもユダヤ人の子どもに絵を教え、収容所への呼び出し状が来た日には、ありったけの画材をトランクに詰めテレジンへ向かいました。
アウシュヴィッツへ送られるまで命をかけて絵の教室を続けました。



テレジン収容所(2011年撮影)



フリードル・ディッカー
1898～1944
ウィーン出身のユダヤ人画家



野村路子氏 ギャラリートーク

11月3日(金・祝日)
13:30～ / 15:30～

☆どちらも30～40分程度となります。
☆入場無料・会場へ直接お越しください。
観覧は立見となります。

テレジンの絵とエピソードを日本へ紹介し、30年以上語りついでこられた野村氏をお招きします。

野村路子氏プロフィール

ノンフィクション作家 / テレジンを語りつぐ会 代表
1989年、テレジン収容所の子どもたちが描いた絵に心打たれ、日本に紹介したいと独力でチェコ・ユダヤ博物館と交渉し、91年から展覧会を全国で開催。
同時に数少ない生還者へのインタビューを重ね、執筆・講演会・歌と朗読によるコンサート活動も続けている。



テレジンを語りつぐ会府中 (2020年1月発足)

「フリードルのアトリエ」と題したワークショップを中心に創作の場を設けながら、子どもたちや若い世代にも伝えたいと子育て中の母親が中心となり活動しています。
メンバーは、音楽家・アート活動家・植物好きなど様々。
2022年度は西武鉄道の架道橋壁画を地域の皆で描く企画「みんなでウォールウォールアート」に実行委員として参加。今年度は、設立時からの目標であった「テレジンの小さな画家たち展」を開催します。小さな創作の場も設置予定です。一緒に準備やお手伝い頂ける方を募集中です！

